

# イ 指導計画例 ① 第6学年 体育科学学習指導案

〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 〇校時  
〇〇市立〇〇小学校 体育館  
6年〇組 〇〇名  
指導者 〇〇 〇〇

- 1 領域 ボール運動 ゴール型 (バスケットボールを基にした簡易化されたゲーム)
- 2 題材名 「めざせパーフェクトゴール! ~〇〇ラインバスケット! ~」
- 3 単元の目標
  - ・ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。 (知識及び技能)
  - ・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
  - ・運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたら、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることできるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

## 3 単元の目標

- ・学習指導要領の目標及び内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- ・運動領域は (知識及び技能) → (思考力、判断力、表現力等) → (学びに向かう力、人間性等) の順で表記する。  
※体づくり運動は (知識及び運動) → (思考力、判断力、表現力等) → (学びに向かう力、人間性等)
- ・児童の実態や学習状況等を踏まえて作成する。
- ・文末は「~できるようにする。」と表記する。

## 4 指導について

- 教材観→一般的特性 (指導者から見た効果的特性)、児童から見た特性 (運動を学ぶ意義、系統性) 等を記述し、学習内容のとらえ方を明らかにする。
- 児童観→児童の日頃の体育に関する様子や、これまでの学習状況、本単元に関わる各観点の習熟状況、課題、事前アンケートの結果等を記述し、児童のレディネスを把握する。
- 指導観→指導者の領域や単元のとらえ方、予定している学習過程、具体的な指導内容、工夫等を記述する。

## 4 指導について

「教材観」「児童観」「指導観」の順で記述するが、文章のまとまりとして3つの観点が読み取ることができれば、「教材観」「児童観」「指導観」を項目立てしなくてもよい。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ゴール型の行い方について、言ったり書いたりしている。 ② 近くにいるフリーの味方にパスを出したり、相手に捕られない位置でドリブルをしたりすることができる。 ③ 得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートをすることができる。 ④ ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる	① 自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 ② 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを友達に伝えている。	① ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ② ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ③ ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。

### 5 単元の評価規準について

- ・学習指導要領解説及び「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）の「学習評価に関する事例について」や「内容のまとめりごとの評価規準（例）」等を参考にする。
  - ・評価規準の語尾は、「～できる」（技能）、「～している」（知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」）、「～しようとしている」（主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外）と表記する。
  - ・「知識・技能」については、知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定する。
  - ・「思考・判断・表現」については、「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定する。
  - ・「主体的に学習に取り組む態度」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定する。
- また、上記表は例示として項目の全てを表記しているが、領域ごと、学期毎、年間を通して各項目をバランスよく評価することができるように工夫して設定する。

例：ゴール型：愛好的態度、公正・協力、共生  
 ネット型：公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全  
 ベースボール型：愛好的態度、責任・参画、健康・安全

#### 《学習評価の基本的な考え方》

- (1) 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- (2) 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- (3) これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

6 2年間（第5・6学年）を見据えた学習計画

5年		
ゴール型（8時間）	ネット型（7時間）	ベースボール型（7時間）
《フラッグフットボール》 ・作戦カードを活用したゲーム	《ソフトバレーボール》 ・キャッチあり	《ティーボール》 ・ティー台にボールを置いて バッティングを行うゲーム

6年		
ゴール型（9時間）	ネット型（8時間）	ベースボール型（6時間）
《バスケットボール》	《ソフトバレーボール》 ・キャッチなしの三段攻撃	《トスボール》 ・味方のトスからバッティ ングを行うゲーム

6. 2年間を見据えた学習計画について

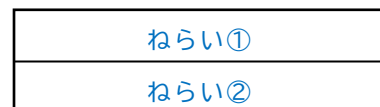
学校の実情に応じて、中学年のどちらか1年間で扱う場合と、2年間で扱う場合の計画例がある。学校体育実技指導資料集等を参考に作成する。

【指導計画の工夫の例】

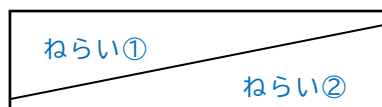
①ねらいをステージで分ける例



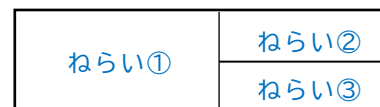
②ねらいを前後半で分け繰り返す例



③時間配分を変化させる例



④前半と後半で構造を変化させる例



7 指導と評価の計画（全8時間）

時間	1	2	3	4・5（本時）		6・7		8・9	
	1 集合 整列 あいさつ 2 オリエンテーション ・学習の進め方を知る	1 集合 整列 あいさつ 2 場の準備 3 準備運動 4 ドリルサーキット ・ドリブルリレー ・シュートゲーム ・パスアンドゴー 5 めあての確認					1 集合 整列 あいさつ 2 場の準備 3 準備運動 4 めあての確認		
	・準備物、約束事、グループの確認 3 場の準備 4 準備運動 5 試しの運動 6 学習のふり返り 7 整理運動 8 片付け 9 あいさつ	6 タスクゲーム ・スポットゲーム 7 メインゲーム ・チーム内3対1	6 タスクゲーム ・チーム内3対2 (ライマンあり) 7 メインゲーム	6 タスクゲーム ・チーム内3対2 (ライマンあり) 7 メインゲーム	6 タスクゲーム ・チーム内3対2 (ライマンあり) 7 メインゲーム	5 タスクゲーム ・チーム内練習 6 メインゲーム ・オールコート	5 タスクゲーム ・チーム内練習 6 メインゲーム ・オールコート		
		<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>指導計画のチェックポイント</p> <p>①学習指導要領の趣旨やねらいを踏まえた授業展開となっているか。</p> <p>②目標、学習のねらいが明確になっているか。</p> <p>③目標に準拠した学習活動及び評価規準になっているか。</p> <p>④観点別に学習状況評価を行っているか。</p> <p>⑤発達の段階を踏まえた系統的な学習内容となっているか。</p> <p>⑥学習状況を的確に評価できる多様な評価方法を用いているか。</p> </div>							
指導の機会	知	①	②	③	④				
	思				①	②			
	態	①		②	③				
評価の重点	知				①カ		②カ	④カ	③カ
	思	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>各時間の主として評価する観点を表記する。</p> <p>主として評価する（できる）のは各時間に1～2つ。</p> <p>※本単元では、主体的に学習に取り組む態度の各項目のうち、①～⑤（③を除く）を設定したと仮定して表記しています。</p> </div>							
	態	①観	③観	②観					

※観：観察、カ：学習カード

評価の3つの局面

1. 診断的評価…児童の関心・意欲・態度、技能や知識等、特に指導すべき点を判断し、授業の計画を立てる。
  2. 形成的評価…児童の変容を見取り、新たな課題提示や、指導の修正を行う。
  3. 総括的評価…目標に対してどの程度まで達成できたかを見取る。←狭義の学習評価
- 「指導と評価の一体化」→学習評価を次の指導や支援に積極的に生かし授業改善を行う。

8 本時の展開（5 / 9 時間目）

(1) 本時の目標

- ・ ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることが できるようにする。 (知識及び技能)
- ・ 自己やチームの特徴について考え、それにあった作戦を選ぶことが できるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・ ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めることが できるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

※本時では、思考・判断・表現を主として評価する。

・ 本時の目標（※「本時のめあて」ではないので注意）の文末は「～できるようにする。」と表記する。

・ 目標は3観点表記するが、それら全てを評価することは困難であるので、本時において主として評価を行う観点を明らかにする。

・ 主として評価を行う「本時の目標」と「単元の評価規準」、さらに本時の展開に表記される「本時のめあて」と「評価項目」の4点の整合が図られていること（同一の内容でリンクできていること）を確認する。（※重点内容の指導と同時間内に評価を行う場合があるが、**技能や主体的に学習に取り組む態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられる**）

(2) 展開

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ（□評価）	準備物
1 集合挨拶	○準備物、約束事、チームの確認をする。	Bluetooth スピーカー ビブス 得点版 コーン マーカーコーン ボール めあてボード
2 準備運動 場の準備	○グループで決められた役割を、協力しながら、安全に気を付けて準備をするように声をかける。 ○チームごとに準備体操を行う。手首や指などを重点的に行うように声をかける。	
3 ・ドリブルシュート ・シュートゲーム	○短い時間で集中して活動できるように声をかける。 ○今までの記録を超えるために、グループで声をかけ合いながら活動するように促す。	
4 本時のめあてを確認する	○本時のめあてを意識しながら活動することができるように声をかける。	
<b>自チームにあった作戦を選び、ゲームで試そう！</b>		
5 タスクゲーム ・チーム内3対2	○チームの得意なことや課題について考えながら活動することができるように声をかける。 ○前時で考えたチームの特徴に合ったプレーを選ぶ	PC

児童の立場で表記する。  
文末は「～をする。」  
「～考える。」  
「～取り組む。」  
「～振り返る。」等

本時のめあてを表記する。

<p>6 メインゲーム ・オールコートゲーム</p>	<p>ことができるように声をかける。</p> <p>○チームの課題に合わせた作戦を選ぶことができるように声をかける。</p> <p>○全員の考えを出し合うことができるように作戦ボードに前時の考えを残しておく。</p> <p>○ゲーム中に選んだ作戦を声 うに助言する。</p> <p>評価項目を表記する。</p> <p>自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 (思考力,判断力,表現力等②)観察・学習カード</p>	<p>PC</p>
<p>5 片付け</p> <p>6 学習の ふり返し</p> <p>7 整理運動 挨拶</p>	<p>指導者の立場で表記する。 文末は「～確認する。」 「～できるようにする。」 「助言する。」「声をかける。」等 ※「～させる。」ではないので注意</p> <p>○選んだ作戦が 合うことが</p> <p>○怪我等の有無の確認、健康観察をする。</p>	<p>学習カード</p>

※必要に応じ、学習カードや技のポイント等の掲示物を添付する。また、配慮を要する児童に対する具体的な手立て等を表記することも考えられる。

# 体育科年間指導計画(例)

〇〇〇立〇〇小学校

小学校学習指導要領及び小学校学習指導要領解説体育編を基に、各校の実態に即した低学年体育科の目標を設定します。

- 低学年の目標
- (1) 各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知らずとも、基本的な動きを身に付けるようにする。【知識及び技能】
  - (2) 各種の運動遊びの行い方を工夫するともに、考えたことを他者に伝える力を養う。【思考力、判断力、表現力等】
  - (3) 各種の運動遊びに進んで取り組み、きまきまを守り誰とでも仲よく運動をし、意欲的に運動をする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

学年	1学期36時間(運動場21時間・体育館15時間)					2学期45時間(運動場20時間・体育館25時間)					3学期21時間(運動場10時間・体育館11時間)				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
運動場	③	④	④	④	④	⑥	⑤	③	⑥	③	⑥	③	③	③	③
体育館	④	④	④	④	④	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
行事															

学年	1学期39時間(運動場21時間・体育館18時間)					2学期45時間(運動場20時間・体育館25時間)					3学期21時間(運動場10時間・体育館11時間)				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
運動場	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑥	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
体育館	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
行事															

領域	内容の取扱い等
A 体づくりの運動遊び	体ほぐしの運動遊び、多様な動きをつくる運動遊びを2学年にわたって指導します。基本的な動きを身に付けるため、連続性のある単独単元として指導します。
B 器械・器具を使った運動遊び	固定施設を使った運動遊び、マットを使った運動遊び、鉄棒を使った運動遊び、跳び箱を使った運動遊びを、2学年で偏りのないよう計画し指導します。感覚つくり運動を準備運動として行いながら、回転、支持、逆さの姿勢、ぶら下がり、振動、手足での移動などの基本的な動きを身に付けるように指導していきます。その基本的な動きを身に付けていくことが求められます。
C 走・跳の運動遊び	30～40m程度のかけっこ、折り返しリレー遊び、低い障害物を用いてのリレー遊び、幅跳び遊び、ケンパー跳び遊び、ゴム跳び遊びを2学年で偏りのないよう計画し指導します。児童の実態に応じて、投の運動遊びを加えて指導することができます。
D 水遊び	水につかかって歩いたり走ったり、水にもぐったり浮いたりする楽しさに触れ、その行い方を知らずとも、水慣れを通して不安感を取り除き、水の心地よさを味わうことから始め、水の中を移動すること、もぐる・浮くことなどの基本的な動きを身に付けるようにし、中学年の水泳運動の学習につなげていくことが求められます。
E ゲーム	「ボールゲーム」と「鬼遊び」で構成されます。「ボールゲーム」では、簡単なボール操作や守りの動きによって易しいゲームをしたり、一定の区域で「鬼遊び」をしたりすることができますようにし、中学年のゲームの学習につなげていくことが求められます。(中学年では、「ゴール型ゲーム」「ネット型ゲーム」「ベースボール型ゲーム」に発展します。)
F 表現リズム遊び	表現あるいはリズムダンスの単独単元として指導します。運動会の表現種目は、表現運動領域の指導内容を踏まえた学習成果発表の場として位置付けます。「イ リズム遊び」については、学校や地域の実態に応じて、簡単なフォークダンスを加えて指導することができます。

学年	内容	時間 (計102時間)
第1学年	体ほぐしの運動遊び、多様な動きをつくる運動遊び	17
	固定施設を使った運動遊び、マットを使った運動遊び、鉄棒を使った運動遊び、跳び箱を使った運動遊び	20
	走の運動遊び、跳の運動遊び、(投の運動遊び)	14
	水の中を移動する運動遊び、もぐる・浮く運動遊び	10
	鬼遊び(7)、ボールゲーム(19)	26
	表現遊び、リズム遊び	15

学年	内容	時間 (計105時間)
第2学年	体ほぐしの運動遊び、多様な動きをつくる運動遊び	18
	固定施設を使った運動遊び、マットを使った運動遊び、鉄棒を使った運動遊び、跳び箱を使った運動遊び	21
	走の運動遊び、跳の運動遊び、(投の運動遊び)	16
	水の中を移動する運動遊び、もぐる・浮く運動遊び	10
	鬼遊び(6)、ボールゲーム(19)	25
	表現遊び、リズム遊び	15

各領域の配当時間を明らかにすることで、指導内容の偏りや未履修を防ぎます。

保護者に向けて、自ら進んでいろいろな運動に親しみチャレンジすることや様々な運動経験の積み重ねが土台になること等の情報を発信することが大切です。また一緒に体を動かし、いろいろな遊びを通してできるようになったことを褒め、いろいろな動きを楽しんでいく意欲をもたせていくことも豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成につながります。

学習指導要領(解説)を根拠に設定した目標に対して評価を行います。体育科では3つの観点で評価し、評価の方向性は児童・保護者とも共有します。

評価(低学年)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びの行い方について発言したり記録したりしている。</li> <li>基本的な動きを身に付けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びの場や遊び方を工夫している。</li> <li>友達のよい動きを見付けたり、考えたことを友達に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びに進んで取り組もうとしている。</li> <li>きまりを守り誰とでも仲よく運動しようとしている。</li> <li>場や用具の安全に気を付けている。</li> </ul>
評価方法	行動観察・技能観察・ワークシート等		